

楽西

～ らくさい ～
No.124
令和 2 年
8 月 10 日発行

●● 社会福祉法人
●● 京都視覚障害者支援センター

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67

TEL:075-333-0171/FAX:075-333-0172

✉→info@kyo-ssc.com URL→http://www.kyo-ssc.com/

2020 年 4 月 新たな洛西寮がはじまる！





法人 常務理事
らくさい治療院 施設長
(サービス管理責任者兼務)

小林 茂治

こんにちは！らくさい治療院施設長の小林です。この度、常務理事を兼務することとなりました。新しい年度を迎え、初めてづくしの日々に鍛えられています。

はじめに、当法人においては、今年度から基本理念及び行動指針を定めました。基本理念は「希望に満ちた成長への喜び」であり、成長する喜びをみんなで共有するという意味が込められています。行動指針は、「働く力、よりよい生活、あなたの能力や可能性に合った自立に向けての支援を行います」であり、具体的に何をやっていく法人なのかを示しました。

また、2020年4月より生活介護とB型事業所を一体化し、形作りを行うとともに、生活支援、健康管理支援の拡充を図るため、職員全員がワンチームとなって、利用者支援を行っています。

さらに、歩行訓練を導入し、洛西寮を利用すれば、生活ができ、働く力が身に付き、歩行訓練等が受けられる法人として新たにスタートしました。

三療事業である美鈴、らくさい治療院においては、新型コロナウイルスの影響を直接受けた年度初めでしたが、現在では徐々に日常が戻ってきています。

次に、2020年度の事業計画に健全経営、人材育成等を示しました。それは、まず健全経営がなぜ必要なのかを考えたとき、この法人が存続し続けることにより、施設利用者に対してだけではなく、広く視覚障害を持たれる方への支援も行えることと、経営とは人作りであり、今後を担っていく職員の育成を図ることにより、この法人を次世代に繋げていくことをマッチングさせていく必要があるからです。

また、2025年は洛西寮40周年であり、この5年間で正念場と感じています。当法人を全国に広く発信し、たくさんの人に知っていただく5年間とし、2025年の洛西寮40周年を晴れて迎え、その5年後の2030年の洛西寮45周年を迎えることを我々の使命とし、次に繋げていく10年間で力の限り精進してまいります。

この大きな目標を達成するためには、一人の力では到底叶いません。みなさまのご教授、ご協力があってこそ目標は達成されると確信しています。これからも一歩ずつですが、前進してまいります。

今後とも社会福祉法人 京都視覚障害者支援センターをどうぞよろしくお願いいたします。



洛西寮 施設長 （サービス管理責任者兼務）

北 広美

今年度より洛西寮施設長に就任致しました、北です。

平成3年入職から昨年度まで、支援員として、利用者と共に、紙器加工、ミシン縫製（自主製品・下請）、点字印刷、下請作業等、納期に追われながら、ワイワイ賑やかな作業場で業務を行ってききました。

執務場所も作業場から支援員室に移動し、今までとは違うデスクワークが中心となり、わからないことだらけでくじけそうになることもあります。作業場から声が聞こえると「楽しそうな声」「不機嫌そうな声」「そろそろ納品日が近づき、忙しくみんな頑張っているんだな」等々気になり、作業場に気持ちが揺らいでしまうことも多々あります。

作業場で頑張っている様子を伺いに行き、利用者から元気をもらい、「私も頑張ろう」と気合いを入れ、慣れない施設長としての職責の重大さに戸惑いつつも、新1年生として日々勉強の毎日です。

共に働く大切な存在の職員に支えられながら、時間が経つのは早いもので就任から4カ月が過ぎました。今後も全職員が一丸となり、法人理念である「希望に満ちた成長への喜び」を念頭に、質の高いサービスの提供を心掛け、いつまでも健康で、そして笑顔あふれる充実した生活が送れるよう微力ではありますが、おばさんパワーで努力を重ねてまいります。何卒、皆様方の心温かきご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。





ホップ・ステップ・ジャンプ！

4月から再スタートしたらくさい作業所。新型コロナウイルスの影響でつまづいた感も否めないですが、なかなか普段とは違う状況の中、それぞれが「今できること」を念頭に日々取り組んでいます。

1日の始まりは、4階ホールでの朝礼から。まずは簡単なストレッチ・ラジオ体操で目を覚まします。その後1日の予定・作業場所をお伝えし、それぞれ移動してもらい作業スタートです。

作業内容は、大きく分けて箱作業、ミシン作業、下請け作業（数珠・かばんの組み入れ等）、点字作業で、元ちくりんの方にとっては初めての作業ばかりです。作業時間も変更となり、慣れないことばかりでついていくのも大変だと思いますが、黙々と作業をされている姿にはいつも感心させられます。「我々職員も負けずに頑張らないと」と気付かされる日も少なくありません。B型一体化で「皆さんやっぱり作業が好き」ということを再認識させられました。そんな中で、自分の作業スキルの現在地がどこにあるのかが分かりやすいように、作業科目毎に「ホップ・ステップ・ジャンプ」の目標設定をしました。まずはホップの目標からスタートし、クリアすれば順番にステップ・ジャンプへと進んでいきます。ちなみに全部で73項目もあり、それを説明したときには皆さん驚かれていました。

まだまだ落ち着かない日が続いていますが、それぞれの歩幅は違えども、1人1人の歩幅で少しずつでも前に進んでももらえたらと思っています。その一助に少しでもなれるよう、我々も日々努力していきたいと思っています。

洛西寮のリハビリテーション

法人理念と行動指針が新たに定められました。法人理念は「希望に満ちた成長への喜び」で、行動指針は「働く力、よりよい生活、あなたの能力や可能性に合った自立に向けての支援を行います」です。すごく素敵な言葉ですが、最近言葉を記憶に留めておくことができない私は、ニュアンスはわかるのですが正確な表現はすぐに忘れてしまいます。



さて、洛西寮は視覚障害者に特化した就労継続支援B型の事業所と施設入所支援を持つ施設です。

「見えない＝できない」と考えずに、できる方法を考え取り組む、福祉就労の作業所です。その作業所は2020年4月から生活介護を廃止し就労継続支援B型に一体化しました。それに伴い、就労支援はもちろん生活面でも、視覚障害リハビリテーションの観点を含め今まで以上に取り入れた支援を提供したいと考えています。

視覚障害リハビリテーションという言葉は、聞きなれない方も多かもしれません。代表的なのは歩行訓練ですが、日常生活動作（ADL）訓練、ITや点字などのコミュニケーション訓練など、朝起きてから夜寝るまでの生活全般に関わることの技術習得が目標の訓練と相談が基本です。見えない・見えにくいことが原因になっている困難を軽減し、心の安定した未来に広がりのある生活のための訓練と言い換えることもできます。今までの洛西寮でも、特に就労においてはリハビリテーションを実践してきたと言えます。職業リハビリテーションです。「能力や可能性に合った自立に向けての支援」により、「働く力」を獲得し、「よりよい生活」を実現することが目的です。当法人の“行動指針”そのものといっても過言ではありません。

そして、日常生活の場面においても就労と同じようにリハビリテーションを積極的に取り入れて、「できる」ことを増やしていくというのが新しい洛西寮の指針です。それは生活のすべての場面においてです。本来、仕事も生活の一部です。切り離すことはできません。安定・充実した「よりよい生活」こそが「働く力」を生み出すわけですから。昨日までできなかったことが、今日になって「できる」という喜びは、利用者本人はもちろん職員も分かち合うことができる喜びです。リハビリテーションは「希望に満ちた成長への喜び」なのです。

洛西寮

新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し、人の生活に脅威をもたらしました。洛西寮においても利用者の健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組んでいます。特に施設への立ち入りの制限の徹底においては、毎年楽しみにしている春の行事やボランティアさんとの交流イベントである「七夕会」の中止や毎月行っている「音楽」や「ヨガ教室」等々の中止や外出の自粛制限等に努めています。日常生活においても新たな生活様式に変わり、

- ①毎日の利用者の検温等体調管理チェック
 - ②マスク着用
 - ③手洗い、手指アルコール消毒
 - ④換気回数を増やす（作業場等）
 - ⑤館内消毒の強化（作業場合）
- 等々に取り組んでいます。

今後も予防対策に努め、一日も早く新型コロナウイルス感染症が落ち着き、安心した生活を送れますようお願いしております。

盲人ホーム美鈴



美鈴では、手洗い・手指消毒・検温はもちろんのこと、フェイスシールド、受付には飛沫防止シートを設置し、患者様に安心して施術を受けていただけるよう、万全を期して臨んでいます。

らくさい治療院

らくさい治療院では、検温・マスクの着用・手洗いがい・手指消毒の徹底、患者様用の手指消毒液の設置、院内消毒、治療毎に枕や胸当てなどの消毒、院内の窓を開け、治療室の入り口には暖簾で目隠しをして換気の徹底もさせていただいています。これからも患者様が安心して来院できるよう、努めてまいります。



ただいま改修中！

洛西寮の居室は和室の2人部屋ですが、新型コロナウイルス感染症対策により、全居室を個室化いたします。完全な個室には建物の構造上や消防法の関係によりできないのですが、和室の部屋の真ん中に壁をつくり、独立した空間で洋室化します。7月1日より改修工事に入りまして、11月中旬にはすべて完了する予定です。

個室化は、プライベートの確保ということで今までに4居室を行ないましたが、感染予防・フィジカルディスタンス（身体的距離）の確保という新しい観点からの必要性が急務となり、補助金を受けて全居室の改修が可能となりました。



新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し

今年度の洛西寮まつりは 中止とさせていただきます。

毎年楽しみにしてくださっている地域の皆様やお世話になっている皆様には
ご迷惑をおかけすることとなり、大変申し訳ございません。
来年は無事開催できることを願い、楽しみにして待っていてください♪

退職のご挨拶

前常務理事 田尻 彰

洛西寮での11年間、大変お世話になりました。

役職員及び、利用者・ご家族、そしてボランティアの方々に深く感謝申し上げ、今後の発展に対し、心からのエールをお送り致します。

『視覚障害者の働き続けられる洛西寮』、一人一人が自己実現できる法人理念の達成に向かって大いなる前進への歩みを強めましょう！

私は、皆さんと過ごした日々を糧にして、ここ京都で44年間、働き続けられた幸せと多数の人脈によって育まれた今日までの日々感謝し、私の心情である常にアグレッシブで、当事者力の発揮に向けて、新たな目標への前進をし続けます。

本当にありがとうございました。



29年間を振り返って

洛西寮 前施設長 鍵田 武彦

今年3月末日、29年間の在籍期間を無事終え定年退職致しました。退職に当たり入職した当時のことが、今なお鮮明に思い出されます。

当時わたしは、京都市の外郭団体で洛西ニュータウンの施設管理の仕事をしていたのですが、ニュータウン内の京都市の施設である自治会館に三療指導所を開設された玉中元理事長とは、仕事上の関係でよくお会いし、玉中氏が創設された法人設立の経緯や洛西寮開設当初のお話をよく聞かせていただいたものでした。そんな中ある日、玉中氏より「わしの仕事を手伝って欲しい。」とお話があり、お受けしたのがきっかけで、29年間お世話になりました。人生の転機はわからないものだと、つくづく今思います。

この29年間を振り返ると、やはり利用者の皆さんとの懐かしい思い出が浮かびます。楽しい行事や研修旅行でのひととき、一緒に会食しながら語り合ったひととき、時には喧嘩もしたひととき、サークルで魚釣りに行ったひととき等、思い出すたびに利用者さんの顔が浮かんできます。

利用者の皆さん、そしていろいろと支えていただきました職員の皆様、ボランティアの皆様には、本当に感謝をしています。29年間勤められたのも皆様方のお陰です。本当にありがとうございました。

今後は、陰ながら法人がますます発展されるよう応援したいと思います。

新人紹介 ～よろしくお願いします～



洛西寮
多田 美幸さん

3月24日から洛西寮に来ました、
多田美幸（ただ みゆき）です。
愛知県出身です。
みんなで仲良くしたいです。
よろしくお願いします。



洛西寮
中谷 恵子さん

（7月1日入所）

洛西寮にきて、はじめは緊張しましたが、
仕事にも慣れてきました。
頑張ろうと思いますので、
よろしくお願いします。
お休みの時は、テレビを見たり
線つなぎをしています。

職員の異動

	日 付	氏 名	所 属
育休復帰	6月 1日	木下 美樹子	らくさい作業所
退職	3月31日	田尻 彰	常務理事
退職	3月31日	鍵田 武彦	洛西寮施設長
退職	6月30日	門 綾子	らくさい作業所

ご寄附・ご寄贈 ※1月～7月（五十音順・敬称略）

以下の方々より、ご寄附・ご寄贈を頂戴いたしました。ありがとうございました。

ご寄附（合計 50,000 円）

匿名

ご寄贈（13 件）

新子義則 出原恵子 伊藤素美 糟谷陽子
齋藤常子 鈴木綾 田中美恵
西牟田さち子 人見佐知 平井多津子
三菱電機(株)京都製作所
ユタカエッセ(株)
洛西ボランティア友の会



月編集後記

感染症や地震、豪雨など、思いもよらない自然災害が、当たり前の日常と隣り合わせの世界。

この現実をどう受け止め、どう受け入れ、どう生きていくか。

私たち一人ひとりの心の在り方を試されているような気がします。

未来に希望を持ち、そして今を精一杯大切に生きる。泥まみれになるような時だって、それも生きている証。もがいてもがいて楽しんで。笑顔ですごせるよう心掛けたいものです。(Y)